

樅の木荘に関するコンセプト

1. コンセプトの位置づけ

- ◇ 樅の木荘に関する内容を住民にわかりやすく説明するとともに、今後実施設計を行う上で必要な事柄としてまとめることを目的とする。
- ◇ 本コンセプトは、村の資産である樅の木荘を最大限活用するうえでの考え方を示したものであり、具体的なデザインを限定するものではない。

2. 新施設の基本理念

- ◇ 有事の際に、防災拠点として利用できる施設とする。
- ◇ 普段から地域住民が気軽に集い、住民の喜びにつながる施設とする
(住民が気軽に集い、交流する場に、自然と来訪者も惹きつけられるよう、設えや使い方で工夫するとともに、地域農産物の販売や地域資源の発信ができれば、住民の喜びにつながる施設として考えること)
 - ・ 宿泊機能、宴会機能(会議開催が可能とする)を兼ね備えた施設とする。
 - ・ 住民に十分な理解が得られ、次代への負担の少ない持続的な経営ができる施設とする
 - ・ 農業や他産業と連携し、原村全体の活性化につながる施設とする
 - ・ 来訪者に原村の魅力を発信するとともに、新規誘客や将来の定住につなげる

3. メインターゲット

樅の木荘の改築にあたり下記のメインターゲットを想定している。但し、現在でも村外からの顧客を中心に多くのリピーターに利用されているが、今後は住民の日常的な利用や新たな客層の開拓なども目指し、下記のメインターゲットを含めた多くの顧客確保を図れる施設とする。

また、多様な利用目的に合わせて臨機応変な対応のできる施設とする。

- ◇ 原村住民
 - ・ 現状では、高齢者の宴会利用が主となっているが、気軽に集える場としての機能や昼食、夕食など新たなサービスを提供することで、家族層や若年層の利用など広範囲な年代の利用を目指す。
- ◇ 豊かな自然とゆったりとした時間を求める宿泊利用客
 - ・ 都会にはない自然の豊かさや静けさを望み、刺激ではなく心地よさやくつろぎ、地域との交流を求める客層を宿泊のメインターゲットとし、長期滞在を目指す。

4. 施設に対する具体的提案

(1) 防災機能の付与

- ◇ 有事の際の防災拠点として、避難所機能を備える。
- ◇ 防災機能を高め電力遮断に対応を図る。

(2) 障がい者にとってやさしい施設

- ◇ 身障者用トイレを設置する。

(3) 人の交流を促す

- ◇ 村民が気軽に利用できる、落ち着いたサードプレイスの役割を持たせる。
 - ※「サードプレイス」→居場所として、自宅、会社でもない第3番目の居場所
- ◇ 宿泊者のゆったりとした時間を過ごす欲求に配慮しながら、地域との交流を自然に図れるよう対応する。

(4) インバウンドへの対応

- ◇ 文化の違いや様式の違いを十分考慮すること。特に上下足の切り替えに単純なバリアフリーだと混乱が生じる可能性があるため、設えの工夫が必要となる。
- ◇ 家族風呂（貸切り可）を設置して、インバウンドへの対応を図る。（国内客にも好評で要望が強い）

(5) 原村の魅力を伝える仕掛け（新築部分での対応）

- ◇ 新築部分の意匠は、周囲の景観との調和に配慮し、豊かな自然の中に落ち着いてたたずむ『高原の隠れ家』のイメージを大切にする。
- ◇ 村が誇る満天の星空を堪能できる仕掛けを工夫する。

(6) 建物内外の景観

- ◇ 建物西側（もみの湯側）は、機械室、車庫等の建屋があるが、山々の眺望やことに夕景は貴重な資源であることから、客室や窓を設ける場合は十分注意すること。
- ◇ 東側の屋内ゲートボール場とのデザイン的な協調は難しいことから、樅の木荘からの見え方に注意し、目隠しを施すなど工夫する。
- ◇ その他機械室や車庫など景観を阻害する可能性のある建物等はできるだけ内部から見えないよう、窓の配置に注意する。
- ◇ 建物内部の動線上（廊下や階段）から見える建物内部の見え方も、非日常の空間を演出するためには重要な要素であるため、十分注意する。
 - 例）居室・廊下の天井の高さ、廊下の幅、階段の傾斜角など
- ◇ 内部の動線上から機械設備や掃除道具などが見えないよう配慮する。
- ◇ 自然光や高原のさわやかな空気、樹林の影などを建物内部でも感じられるよう工夫する。
- ◇ 来訪者の動線上に情報発信の場や物販があると良い。

5. 今後検討が必要な事項

- ・ 施設の名称は、想像が広がる名称に変更する必要がある。
- ・ 温泉スタンドのサービス提供方法（料金等）
- ・ 提供するサービス等のソフト面での対応については、今後管理者（指定管理者）や関係者などと協議を重ねながら充実させる必要がある。